



倉田 利奈 議員

### 新型コロナウイルス感染症対策について

**問** ワクチン接種の予約再開について、防災無線・回覧板・広報車など、複数の媒体で知らせる必要があったと考える。今後の方法は。

**答** 今後は、接種年齢層が下がってくるので、インターネットでの周知をしっかりとこなっていく。

**問** 教育現場における、部活動・プール授業・各種行事への対応は。

**答** 修学旅行と緑の学校は、秋以降に延期。オリエンテーション合宿は中止し、市内のウォークラリー大会に変更。小学校で春に予定していた運動会は、秋に延期。中学校の体育大会は、当初から9月の予定なので、変更はない。プール授業は中止。ただ南中学校は、コパンで10月に行う予定のため、感染状況に応じて判断する。

**問** 10月の寒くなる時期に、水着で濡れる中、換気をおこない安全に授業ができるか。

**答** 安全に実施できると考えている。

**問** 部活動における大会の保護者参観は、可能であるか。

**答** 保護者が参観できる方向で検討している。

### 公共施設について

**問** 公共施設推進プランの変更と、土地購入により、令和3年度から5年度にかけて、公共施設にかかる費用が3億6,000万円以上膨らむことになっている。コロナ禍の歳入減も考えると、昨年度からの長期財政計画からでは、計画が成り立たないと考えるが。

**答** 今のところ、財政上問題ない。

**問** かわら美術館は、令和3年度4年度に民間移譲・機能変更となっていたが、今年度の公共施設推進プランでは、令和40年度までの更新費が30億6,500万円に変更された。中央公民館は、改修費10億円が捻出できないから、取り壊されたが、美術館を残すことになった理由は。

**答** 基礎調査の内容を反映しただけである。残すという発言はしていない。

**問** 基礎調査が無駄遣いと考えるが、なぜ仮に残した場合の計画になったのか。

**答** その時点の状況で判断していく。



神谷 直子 議員

### 新教育長に問う。教育行政について

**問** コロナ禍、1人1台タブレット等、今までの教育現場から大きく変化した。高浜市の教育についてどのように考えているか。

**答** 「生きる力」の育成が必要と考えている。「知識

基盤社会」の時代で「問題を見いだし解決する力」「知識技能の更新のための生涯にわたる学習」「他者や社会、自然や環境と共に生きること」など変化に対応する能力が必要。それらには、授業が大切。先生側は、授業を充実させ、生徒児童側は、いかにして学ぶかが大切である。

### 子ども達を取り巻くコロナ対策について

**問** 教育幼保現場での取り組みはどうか。

**答** 感染させない、広げない。具体的には、健康チェック、体温や健康状況を記し、該当すれば登校を控える。同居の家族に感染者や濃厚接触者がいる場合、風邪等の場合も、児童生徒は

登校を控える。教職員も同様。学校での生活はマスク着用を基本。給食や体育の授業など、人との距離を確保し、会話せずに、外す場合もあり。手洗い、換気を徹底。感染症対策をしても「感染のリスクが高い学習活動」は、実施せず。

幼保では、屋外ではマスクの着用を厚生労働省も推奨しておらず、それになっている。また、就学前のマスクの着用には注意が必要。特に2歳未満では体調不良を訴えたり、自分で外すことが困難で、窒息や熱中症のリスクが高いため、3歳未満児はマスクを着用していない。3歳以上児は各園で子どもたちに応じ、体調の変化に留意して対応している。

**問** 熱中症などの対策はどのようか。

**答** 新型コロナウイルス感染症対策を行い、さらに熱中症対策を優先。他との間隔が確保できる場面は、マスクを外しての登下校。日傘、麦わら帽子等つばの広い帽子、クールネックタイ等の対策グッズの使用を認めている。通学カバンができるだけ軽くなるようにする。小学校においてはランドセル以外の軽いカバン（ナップサックなど）での登下校も認めている。中学校は、体操服登下校も可。